

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 赤坂 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として令和7年4月17日(木)に、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」、文部科学省が指定した日(4月18日から4月30日の間)に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知りたいとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

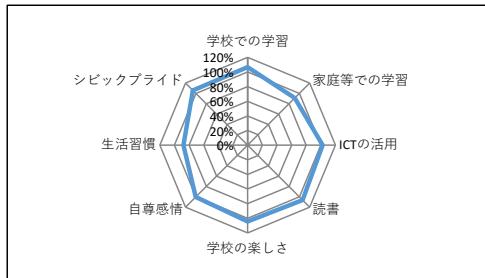
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均と比べて無回答率が低い問題が多く、粘り強く問題に取り組んでいることが分かる。また、目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にする内容の正答率は全国平均を上回った。しかし、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するなど「書くこと」の内容に関する問題の正答率は低く、課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている	
	よくできた問題	・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を明確にする問題 ・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容を捉える問題		
	努力が必要な問題	・自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題 ・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題		
算数	全体的な傾向や特徴など	国語科と同様に全国平均と比べて無回答率が低い問題が多く、粘り強く問題に取り組んでいることが分かる。また、異分母の分数の計算の問題の正答率が、全国平均を上回っている。一方、百分率の意味を正しく理解し、何倍になっているか表す問題など、「変化と領域」の領域についての問題では、正答率が低く、課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている	
	よくできた問題	・グラフから、項目間の関係を読み取る問題 ・異分母の分数の加法の計算の問題		
	努力が必要な問題	・小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉える問題 ・百分率の意味を正しく理解し、何倍になっているか表す問題		
理科	全体的な傾向や特徴など	国語科と同様に全国平均と比べて無回答率が低い問題が多く、粘り強く問題に取り組んでいることが分かる。また、電気の回路の作り方に関する問題の正答率が全国平均を上回っている。一方、顕微鏡の操作に関する問題や「生命」の領域に関する問題では、正答率が低く課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている	
	よくできた問題	・電気の回路の作り方に関する問題		
	努力が必要な問題	・ヘチマの花のつくりや受粉についての知識に関する問題 ・顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能に関する問題		

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
<p>・「学校に行くのは楽しいと思う」「友達関係に満足している」の問い合わせに対してどちらも全国平均を大きく上回り、90%以上の児童が肯定的に回答している。</p> <p>・学習面での質問に対しても、全国平均を上回っているものが多く、特に「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」の問い合わせに肯定的に回答している児童が多くいるなど、考える力を伸ばすと学習に取り組んでいる児童が多くいることが分かる。しかし「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の問い合わせは、全国平均を下回る結果となり自らの考えを発表することに課題が見られる。</p> <p>・「読書は好きですか」の問い合わせに対して肯定的に答えた児童は多いが、学校の授業以外の読書時間の問い合わせには、全国平均を下回る結果となっているため、授業以外の時間や家庭での読書習慣を促す必要がある。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・国語科、算数科とともに、チャレンジタイムなどを活用して、ドリルやAIドリルを活用して、基礎的内容の確実な定着を図る。
- ・「書く活動」や「話し合う活動」を通して、児童相互で考えを伝え合ったり自己の成長や変容に気付いたりすることで、より深い学びにつながるように、ICT機器の活用など指導方法の工夫を行っていく。また、授業の中に自分の考えを発表する意見交流の場面を設定し、自分の考えを表現・発信する経験を多くの児童ができるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「毎日同じくらいの時間に寝ている・起きている」の質問に対して肯定的な回答が少ないので、養護教諭とも連携して、整った生活リズムや十分な睡眠と健やかな体と心の成長について、児童だけでなく家庭にも発信していく。
- ・年2回の家庭学習チャレンジ週間にあわせて、「家庭学習マイスター賞」の表彰を行うとともに、学習ノートの好事例を校内放送で紹介及び掲示をすることによって、児童の学習意欲を高め、家庭での学習環境を整える。